

時空散走 iwaki

湯本・浅貝

(湯本駅)

距離：約10キロ サイクリング所要時間：約60分 ウォーキング所要時間：約150分

湯本温泉郷で黒いダイヤの夢の跡を追う

～鯨岡阿美子の新瀧跡から
コールシスターズの浅貝球場へ～

1 湯本駅前ミニシアター Kuramoto

2019年2月に湯本好き、映画好き、本好きのオーナー夫妻が始めたミニシアターです。1階はカフェで書籍や雑貨なども販売しています。

2 新瀧跡(鯨岡阿美子ゆかりの地)

当地には湯本きっての名旅館・新瀧がありました。そこで育ったのが鯨岡阿美子(1922～1988)です。磐城高等女学校(現：磐城桜が丘高校)卒業後、毎日新聞政治部初任の女性記者となり、市川房枝(婦人運動家・参議院議員)の知遇を得て弟子を自称しました。昭和28年(1953)、日本テレビに入社して初の女性ディレクターとなると菅原文太や岡田真澄をモデルにして日本初のファッション番組『僕と私のファッション』を制作。昭和39年(1964)に「アミコ・ファッションズ」を発足させるとパタンナー、デザイナーの養成、全米18都市を巡る「ジャパン・ショウ」開催などで業界をリードし続けました。ちなみに夫の古波蔵保好(1910～2001)は毎日新聞時代の同僚で名エッセイストでしたが、沖縄料理店「美栄」(みえ)のオーナーでもあり、その「美栄」で修行をしたのが湯本駅前の沖縄すば料理「A家食堂」(湯本町天王崎38 / TEL: 0246-84-7420)です。

3 原子力災害考証館 furusato (古湊屋9階)

東日本大震災で発生した福島原発事故に関する資料や被災者の遺品などを展示しています。「賛成/反対」という立場を超えて学び、考え、話し合いをする場です。

※入館無料 / お問い合わせ：0246-43-2191

4 備中屋本家斎菊

明治時代に建築された蔵を利用して2020年9月にオープンした蔵カフェです。湯本の郷土資料や地元アーティストの作品などを鑑賞しながらコーヒー、日替わりスイーツが楽しめます。

5 霊光山妙賞寺

1910～1960年頃まで当地に湯本町の火葬場がありました。閉場後、無数の遺骨が散乱した状態でしたが、日蓮宗僧侶の大越練祐が供養を行い、檀信徒の協力を得て昭和41年(1966)に妙賞寺を建立しました。火葬場の煙突が改装されて「旧火葬場に係わる有縁無縁の諸霊」「常磐炭鉱殉難者一同之霊」「常磐炭鉱朝鮮人強制連行労働者之精霊」を慰める「萬霊供養之塔」になっています。

6 いわき湯本病院

大正10年(1921)に大倉財閥系の入山探炭(1944年に国策で浅野一郎の磐城炭礦と合併して常磐炭礦となる)の事業所病院として開設されました。落盤、ガス漏れ、出水といった緊急時の事故対応で数多くの労働者の命を救い、また東北大学と連携して鉱山医学研究室を設置し、熱中症「あかまり」の研究などを行いました。昭和38年(1963)に医療法人常磐会いわき湯本病院となりました。

7 いわき湯本温泉 源泉湯場

温泉を安定供給するために昭和51年(1976)、湯本財産区、常磐興産、いわき市が常磐湯本温泉株式会社を設立。地下620mに10数本のボーリング坑を打ち込んで花崗岩内の温泉(58度)を湧出し、湯本の旅館やホテル、スパリゾートハワイアンズなどに送っています。ちなみに湯本温泉は古代、ある若夫婦が弱っている鶴を温泉で回復させ、後日、鶴は美女に化けて「ここで湯治を始めなさい」と巻物を授けて開湯したといわれています。

8 子種大山祇神社

温泉神社の社伝では子種五郎隆顕と妻の花形姫は不妊で悩んでいましたが、子安山住神を祀ると清泉が湧き出して飲用すると、たちまち懐妊したといわれています。不妊に悩む夫婦が参詣し、『湯本温泉記』では水汲みの際に男性と出逢うと男の子、女性と出逢うと女の子を授かることがあります。湯本は温泉ばかりで真水は少なく慢性的な水不足で住民は子種さんまで水を汲みに来ました。

9 浅貝球場跡

昭和22年(1947)、常磐炭礦は硬式野球チーム(のちの「オール常磐」)を結成し、のちには5000名収容の浅貝球場を造成しました。親善交流で巨人軍二軍投手の馬場正平(のちのジャイアント馬場)が登板したこともあります。常磐炭礦チームは都市対抗の東北大会は5回優勝でしたが、全国大会では7回出場中4回も日本石油(横浜市)に敗北し、これは「石炭対石油」の代理戦争で新旧エネルギー交代の暗示となりました。昭和46年(1971)の常磐炭礦磐城炭業所閉山と同時にチームも解散し、その歴史を閉じました。ちなみに昭和31年(1956)に常磐炭礦は女子野球チーム「コールシスターズ」を結成し、浅貝球場でも練習・試合を行っています。石炭衰退の影響で昭和37年(1962)に閉団しましたが、選手のほとんどが炭鉱関係者の娘たちで東京・世田谷の女子寮で合宿生活をしながら裁縫、書道、茶道などの講義を受けるという女子教育のノウハウが後年のフラガールの育成、成功に繋がったといわれています。

10 常磐炭礦浅貝保養所跡

当地で昭和40年(1965)、日本初のフラダンス、ポリネシア民族舞踊の学校として常磐音楽舞踊学院が設立されました。講師のカレイナ二早川の指導を受け、初代フラガールとなった第一期生18人(リーダー・レイモ二豊田)の常磐ハワイアンセンターのデビューと活躍を描いたのが映画『フラガール』です。

11 橋本酒店

創業100年を超える老舗酒店ですがタイで日本語教師として働いていた経験を持つオーナー夫妻が美味しいタイ料理を楽しめるカフェ & バーを開業しました。また常磐ハワイアンセンターの初代料理長・石井保シェフが湯本駅前で経営していた「レストラン ヤスヒロ」の伝説の名物メニュー「黒カレー」を引き継いで、これも人気です。

12 いわき湯本温泉スタンド

ガソリンスタンドのように温泉が購入できます。事前に市窓口で利用メダルを購入し、温泉を持ち運ぶタンクに入れて持ち帰ります。自分好みの使い方で温泉を楽しめます。

13 太平洋酒造

享保10年(1725)創業。当時、湯長谷藩内には酒屋がなく藩外で酒を買うと藩の資金が流出するので藩内で酒造をはじめ、それが太平洋のはじまりといわれています。

14 湯長谷藩陣屋跡案内板

寛文10年(1670)、磐城平藩2代藩主・内藤忠興の隠居の際に次男の政亮に1万石の分与が許され、湯長谷藩ができました。歴代藩主は名君が多いとされ、磐城平藩の内藤家は延享4年(1747)に延岡(現・宮城県)に転封されますが、湯長谷藩の内藤家は幕末まで存続しました。しかし戊辰戦争で新政府軍に敗北し、明治4年(1871)に廃藩されました。第38回日本アカデミー賞最優秀脚本賞(土橋章宏)を受賞した映画『超高速!参勤交代』は湯長谷藩をモデルにしています。